

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高砂市立高砂児童学園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月16日	～	令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 20 (きょうだいで利用児あり)	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月曜日から金曜日の週5日、毎日学園に通うことで、身辺面の確立につながりやすい。また、専門職（OT/ST/PT/心理士）なども配置しており、集団療育及び個別療育を受けることができる。	毎日繰り返し行う身の回りのことについては、ひとつずつ丁寧に繰り返し行っている。専門職の指導については、専門職と情報共有を行い、個々に応じた支援を検討し実践するようにしている。療育については、こども達の様子を写真や指導者の聞き取りを元に報告書を作成し、保護者に配布を行っている。必要な時には、保護者にも参加してもらっている。	こども達が毎日安心して、そして楽しんで登園できるように、日々の活動内容についても職員同士で話し合いながら進めていく。また研修なども積極的に受講しながら、保育・療育の質を高めていくようにする。また、オープンスクールなどで実践公開する。
2	地域のこども園と定期的に交流保育を行っており、同年代の友達と触れ合う機会を設けている。児童学園を卒園して、新たな集団生活に入るための経験ができています。	高砂市内の園と定期的に交流保育を行い、いつもと違う遊具を使いながら体を存分に動かしたり、ルールのある遊びにも参加させてもらうことで様々な経験をする機会や地域の友達と触れ合う機会をつくり、市内の公立・民間園と連携し、1回の経験を大切に取り組んでいる。	初めての環境が苦手な子や大勢の人数が苦手な子もいるので、こども達の無理のないように少しずつ学園以外の環境にもなれるようにし、その中で楽しいことを見つけていく。
3	公立園ということもあり、日常的に行政とのつながりも大きく、就園前施設・小学校・支援学校・事業所などの連携体制がとれている。	保護者に承諾を得た上で、卒園後の進路先と情報共有を行いながら支援を継続するようにしている。また、他園から児童学園に入園してくる時にも、情報共有を行いながらスムーズに移行できるようにしている。	関係機関との連携を引き続き行いながらすすめていく。学園主催での研修を企画・運営を行う。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化。（昭和40年開園）	これまでも手入れやメンテナンスを繰り返している。築60年を経てメンテナンスだけでは補いきれなくなっている部分もあるので、引き続き建て替えまでは調査・手続きに時間を要する為、安全点検をしながらの運営になる。	市として施設の建て替えに向けてすすめていき、安心・安全に過ごせるようにしていく。
2	最低限の療育室はあるが、余裕のある療育室はないので、個別指導や取り組み内容、天気によって活動場所が制限されることがある。	古い建物の為、昔の利用状況に応じた設備・環境になっており、現在の活動内容に応じた設備になっていない。またバリアフリー化になっておらず、車いすなどの使用の際も無理が生じる。またトイレが寒い。	ホールなどの部屋をクラスごとに利用できるように、時間を組み合わせていながら使用できるように調整している。トイレに関しては、トイレ内にホットカーペットや暖房を設置して対応している。
3	自然に囲まれた緑豊かな場所にセンターがあるが、公共交通手段がない。（こどもは送迎バスでの通園になるが、保護者が自家用車または自転車では来所できない。）	自家用車で来園できない方が、来所する手段が難しい。	会議など、別の場所で開催可能な場合は、参加者ができるだけ参加しやすいようにしている。